

2月

February

WHO と医薬品特許プール MPP、複数の必須診断薬への患者アクセス拡大を可能にする技術移転ライセンスを発表

この契約は、既存の疾患に対する複数必須診断薬の製造を可能とする。

WHO が視力・眼科検診実施ハンドブック (VESIH) を発表

視力と眼病のスクリーニングを実施するための段階的ガイダンスを提供。

敗血症の臨床管理に関するガイドライン

WHO は敗血症の予防と管理、その実施を支援するツールも含むガイダンスを作成。

健康とエネルギーの行動プラットフォームレポート

行動プラットフォーム (HEPA) は、健康増進のための保健分野とエネルギー分野の協力を強化し、包括的な5目標を掲げた戦略的作業計画を策定。

顧みられない熱帯病に関する戦略・技術諮問グループ会合報告書

グローバルな団結と集団行動により、NTDs の無い健康が普遍的な権利となる世界を実現できるとグループでの見解を報告。

WHO の緊急保健能力強化のためのベンチマーク更新

国際保健規則 (IHR) および保健緊急事態の予防、準備、対応、回復能力の実施を支援するため「公衆衛生的・社会的対策基本的介入技術」を新たにベンチマークに追加。

ジフテリアの臨床管理ガイドライン

アフリカ地域でのジフテリアのアウトブレイクによりガイドラインの必要性が生じ、急遽ガイドラインを作成。

健康への支出 (報告書)

世界の医療支出は増加を続け、世界 GDP の 10.3% に達した。WHO は細分化された支出情報を活用し、増加する世界の健康への支出のダイナミクスについての新たな洞察を提供。健康不平等とがんに対する経済的保護の欠如を報告。

女性器切除をなくすため、生存する被害者を最前線に配置

WHO など国際機関は、女性性器切除 (FGM) に関する共同声明を発表。

公衆衛生上の緊急事態におけるヘルスケアシステムへのサイバー攻撃と偽情報

WHO は国際刑事警察機構などと共同で、

こうした脅威に対抗するための2つの報告書を作成。

若者を支援するメンタルヘルスコンテンツ (会議報告書)

円卓会議は「若者向けの、発達に適したオンラインメンタルヘルスコンテンツ」の指導原則に焦点を当てた報告書を発表。

「ストップ結核パートナーシップ」: End TB? Yes, we can.

事務局長基調講演で、結核の撲滅に向け、①各国政府が公約を遵守、②サービス提供と研究に必要な資金ギャップの解消、③新しい結核ワクチン開発に科学的資源と政治的資本を動員することを強調。

WHO、AWaRe (Access, Watch, Reserve) 抗生物質ブック

感染症に対する抗生物質治療に関する簡潔でエビデンスに基づいた実用的臨床ガイダンス。

WHO 医療用重要抗菌薬リスト

WHO MIA list は、ヒト以外への抗菌薬使用がヒトの薬剤耐性 (AMR) に与える影響を最小限に抑えるためのリスク管理ツール。抗菌薬の AMR 健康リスクに基づき、重要度を3分類。

緊急時対応フレームワーク (ERF) 第2版

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



WHO ERF は、世界の様々な緊急事態に対応するオール・ハザード・アプローチを採用し、WHO スタッフに対し緊急事態への重要なガイダンスを提供。

世界政府サミットでの事務局長スピーチ

《発言要旨抜粋》パンデミック協定は国家安全保障へのコミットメントで、すべての国の国益のためのもの。Covid-19 を生き抜いた世代として、私たちには、私たちが耐えた苦しみから未来の世代を守る連帯責任がある。

「西太平洋地域における AMR サーベイランスシステム確立」ガイダンス

増殖の速い細菌における AMR を取り上げサーベイランスの強化を支援、既刊の「抗菌剤耐性監視のための GLASS マニュアル」「西太平洋地域、抗菌剤耐性病原体の発生への対応ガイダンス」を補完。

WHO、伝染病とパンデミックに対する防御を強化

今後の呼吸器ウイルスパンデミックなどへの対応に必要なモニタリング、準備、対応のため WHO Global Influenza Program を立ち上げ。

WHO、結核予防治療に関する改訂の情報を発表

発行予定の「結核 (TB) 感染症の治療、または結核予防治療に関するガイダンス第 2 版」には、結核疾患を除外するためのスクリーニング戦略や、結核感染の検査の使用に関する推奨事項も盛り込ま

れる予定。

「屋内残留散布 (IRS)」運用マニュアル

媒介生物がヒトに病原体を媒介する前に駆除する、安全で効果的な薬剤の IRS 屋内残留散布ガイダンス・マニュアル。

Working for health レビュー

国、地域、世界の戦略や計画に沿った労働力の行動を促す Wfh 5 カ年行動計画期終了時レビューを発表。

WHO がバイオ製造人材育成開始

中低所得国において簡便な研修プログラムを提供することでバイオ製剤生産能力の強化を目的とし、人材育成イニシアチブを立ち上げ。

WHO、小規模な水供給強化のためのガイドラインなどを発表

小規模水道問題は病気や社会的・経済的悪影響につながる。WHO は「飲料水の水質に関するガイドライン」と「衛生検査パッケージ」の推奨事項採用を奨励。

複数国で発生したコレラ状況報告:2024 年 2 月

WHO は、コレラの世界的な再流行を内部最高危険レベルに分類したが、経口コレラワクチン (OCV) の危機的な不足が持続的に影響。

加盟国、国際保健規則の改正案を検討

WHO 加盟国は、国際保健規則 (IHR、2005) の改正案について議論を継続。

WHO: 健康の公平性の社会的決定要因のモニタリング

WHO は「健康の公平性の社会的決定要因に関する世界報告書」とともにそれらの運用フレームワークを発表予定、

女性と新生児にポジティブな産後体験の重要性を強調する新シリーズ

WHO、BMJ Global Health 誌で「母親と新生児のケア」に関する新しいシリーズを立ち上げ。妊娠・出産は単独で起こる単一の健康イベントではないというエビデンスのもと、妊産婦と新生児の健康に対する総合的なアプローチを求める。

「私の健康、私の権利 (My health, my right)」: 世界保健デー 2024 テーマ

世界の 140 カ国が憲法で健康を人権として認めているが、その財源について言及している国は 4 カ国のみ。2024 年のテーマは「あらゆる人が、あらゆる場所で享受できる健康の権利擁護に取り組む」として定められた。

第 55 回人権理事会における WHO 事務局長スピーチ

《DG 発言要旨》世界各国は「世界保健機関憲章」、その後『世界人権宣言』を採択し、健康とウェルビーイングのために十分な生活水準を確保する権利を有することを確認した。これからは障害者インクルージョンも WHO の「変革」にとって不可欠な要素。

2 月の WHO ファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。 <https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・難聴と聴覚障がい、 ・女性性器切除、 ・てんかん、 ・コンドーム

3月
March

聴覚ケアを改善するためのガイダンス

3月3日の「国際耳の日」に向けて、低・中所得国の成人と5歳以上の子供向けの2つのアプローチによる補聴器サービスの実践的なガイダンスを提供。

8人に1人が肥満

Lancet誌で2022年現在、世界で10億人以上が肥満と報告。データセットは、Global Health Observatoryで公開されている。

WHO: 医薬品品質保証ガイドライン

このGL-10版は、医薬品基準の強化リソース集で、新規8本と改訂10本を含む46本のガイドラインを収録。

環境・気候変動・健康介入リポジトリ

WHOは気候変動の要因への介入に関するエビデンスや現状の評価の提供を目的とし「介入に関する系統的(システムティック)レビュー」の包括的なリポジトリを開設。

子宮頸がん撲滅への歴史的な第一歩

子宮頸がん撲滅フォーラムにおいて、子宮頸がん撲滅に向けた、新規資金、政策、プ

ログラムなどへのコミットメントを発表。

ドルテグラビルに対する HIV 薬剤耐性増加を示す報告

DTGなど抗レトロウイルス療法は高いHIVウイルス量抑制レベルを示しているが、一方薬剤耐性のレベルは臨床試験での観察レベルを超えている。対応には社会レベルでの協調行動が必要。

顧みられない熱帯病医薬品寄贈プログラムの効率最大化のための新イニシアチブ

NTDs治療のための医薬品寄贈の効率増強を図るため、業界と連携し予防化学療法薬の提供を強化し「大量薬剤投与キャンペーン」でのタイムリーな利用を確保。

Pan PRET-1: インフルエンザ卓上シミュレーション演習

WHOは今後、病原体にとらわれないシミュレーション演習パッケージを開発し、パンデミック計画の策定を促進。

子どもや青少年の定期健康診断ガイドランス

子どもと思春期の健康とウエルビーイングのための包括的なアジェンダの運用を支援する最新出版物。

ICD-11「精神・行動・神経発達

の疾患」の新診断サポートマニュアル

WHOは「ICD-11精神、行動および神経発達障害(ICD-11CDDR)の臨床的説明と診断要件」包括的診断マニュアルを発行。

医療・介護労働における世界的危機の根底に男女の不平等

WHO報告書「医療とケアのための公平な分配: ジェンダーと医療・ケア労働の過小評価」では、医療・ケア労働におけるジェンダー不平等や無償の医療・介護労働などが女性の有給労働市場への参加を低下阻害していると述べた。

世界の子どもの死亡数が歴史的に低水準に

国連の子どもの死亡率推計のための機関間グループが発表した推計によると、5歳の誕生日を迎える前に死亡した子どもの数は歴史的な低水準最と報告。

子どもの環境衛生、無料オンラインコース

WHOとUNICEFは、環境汚染と気候変動という課題の中で子どもたちの健康を守るために医療従事者がこれらのリスクを認識し、対策に不可欠な知識とリソースを身につける目的でOCを提供。

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



WHO、心理的介入支援の新マニュアルを発表

世界で8人に1人が精神的に不健康な状態を経験。WHOは非専門家による心理学的介入の実施を支援するための新しいマニュアルを発表。

神経疾患が、障害や他の病気の主因となっている

The Lancet Neurologyで、神経疾患は障害や他の病気、短健康寿命の主原因で増加傾向と掲載。

ダイオキシン類化合物の毒性等価係数更新(再評価)

WHOは塩素化ダイオキシン様化合物に関する2005毒性等価係数TEFを再評価し、その毒性当量が若干低くなる傾向があったとした。

医療従事者の移住と移動に関する二国間協定の手引き

保健医療システムの適切な維持などを最優先しつつ、適正で国際的な保健医療従事者の移住と移動に関連する二国間協定を調整するためのガイダンスを発表。

世界保健機関との関わりに関する非国家主体向けハンドブック、第2版

ガイダンスは、WHOに関与する非国家主体が、WHOとの円滑な交流を確保す

るために、FENSAフレームワークの原則とプロセスに基づくWHOとの関わり方を説明し、期待される利益とリスクのバランスを図る。

薬剤耐性結核の診断における次世代標的シーケンス検査の新ガイダンスとポータル

WHO、結核に関する統合ガイドラインの第3版において、薬剤耐性結核の診断の次世代シーケンシング検査を用いることを推奨。必要な手順とプロセスが示され、ポータルも提供。

WHO、健康的な環境を計画するためのリソースのディレクトリを立ち上げ

環境リスクに対処するため、都市計画者、政策立案者、地域社会をより健康的な環境に導くことを目的としたリソースの包括的なディレクトリを発表。

世界が必要とするパンデミック協定の実現をアピール

すべての国の指導者たちに対しパンデミック協定についての公開書簡を発表。

政策立案に関する知識のトランスレーションと証拠に基づいた世界的研究課題

政策立案のため、WHOは知識トランスレーションと証拠に基づく政策立案における広範かつ包括的な研究優先順位設定

演習を開始。

医療専門家向け、気候変動への取り組み支援

このツールキットは、最も重大な地球規模の健康課題の1つである気候変動の緩和、回復力の構築、公衆衛生の保護に向けた集団的な行動を促進することを目的とし、包括的なリソースを提供。

性と生殖に関する健康と権利における人工知能(技術解説)

WHOとUNの人間の生殖に関する特別計画(HRP)による新しい技術解説では、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)における人工知能(AI)の応用を検討。

医薬品の開発・提供における人工知能活用のメリットとリスク

WHOのディスカッションペーパーは、公衆衛生上の利益とリスクや倫理的な課題への対処など、適切なガバナンスが必要不可欠と記載。

WHO、障害のある女性や高齢女性に対する暴力に一層の注意を呼びかけ

「高齢の女性に対する暴力の測定」と「障害のある女性に対する暴力の測定」の報告では、女性への暴力被害のほとんどは隠蔽。WHOは、このエビデンスギャップに対処するためのいくつかの対策を推奨。

3月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。 <https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・新生児死亡率、・乳がん、・下痢性疾患、・意図的なイベント(行為)、・片頭痛およびその他の頭痛障害、・子宮頸がん、・ヒトパピローマウイルスとがん、・肥満と過体重、・栄養不良、・住民登録と人口動態統計

4月
April

医療従事者ワクチン接種プログラム

WHO は、医療従事者に多くの抗原に対するワクチン接種を推奨、ワクチン導入の支援の法的根拠、地域住民の賛同、行動促進、デリバリー、パンデミックへの備えなどに関する出版物を刊行。

動物インフルエンザのアウトブレイク、公衆衛生リソースパック

WHO の動物におけるインフルエンザのアウトブレイクや検出時に必要な最新の資料集。ヒトと動物の公衆衛生部門の役割、サンプル収集と臨床管理などに関する説明。

パンデミック時ワクチン、規制監督リスクベース・アプローチ

パンデミック時のインフルエンザワクチンの規制準備に関する世界的なガイドラインが改訂。近日承認・公表される予定のガイドラインは、ワクチンリスクベースのアプローチを概説。

WHO、B 型肝炎に関する新ガイドラインを発表

WHO はアジア太平洋肝疾患研究会議において、慢性 B 型肝炎 (HBV) 感染の予防、診断、治療に関する新ガイドラインを発表。治療対象者の大幅な簡素化と拡大を推奨。

WHO 加盟国、世界初のパンデミック協定の最終化に向けて交渉再開に合意

この合意は、パンデミック協定の採択案が検討される予定の、次回世界保健総会に向けた重要な節目となる。

生成 AI を活用した公衆衛生デジタル健康プロモーター: S.A.R.A.H.

WHO は「私の健康、私の権利」に焦点を当て、がん、心臓病、肺疾患、糖尿病など、世界の主要な死因の危険因子に対する理解を深める、AI を活用したデジタル健康促進プロモーター S.A.R.A.H. を発表。

国際的な医療従事者の適正な移住管理を促進

「保健医療人材の国際的な採用に関する世界実施規範」ガイダンスは、当該国間における医療システムへの影響適正化や移入医療従事者の保護と適正雇用の重要性を強調し、医療従事者の移動と移住の要素を持つすべての政府間協定に適用。

国家の日常健康情報システム最適化戦略 (資料)

資料は、各国の健康データシステムを強化し、保健サービス管理および国家・グローバル目標のモニタリングのための

情報を作成・利用するため「国家の定期健康情報システム最適化戦略」を概説。

コレラとの闘いを強化する迅速診断検査の世界展開

コレラはアウトブレイクが多発したことでワクチンの需給バランスが崩れている。「コレラ迅速診断キット配布プログラム」は、世界的な予防接種活動の目標設定を改善する。

セルフケア・ホイール：性と生殖に関する健康と権利を向上させるためのイノベーション

セルフケア・ホイールは、性と生殖に関する健康と権利など、健康とウェルビーイングのための WHO 推奨事項を、わかりやすく図解したツール。

「世界保健医療従事者協定」実施推進のための新法律・政策ラボ

このラボは、10 の重点領域を特定し、医療・ケア従事者の権利を保護し、適切で実現可能な労働環境を確保するための国際的な法的義務に関するガイド。医療従事者を支援しグローバル公衆衛生の改善を支援する。

WHO：ウイルス性肝炎感染に警鐘

「2024 世界肝炎報告書」によると、肝炎感染の予防が進んでいるにもかかわらず、肝炎の診断や治療が進んでいない

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



め死亡者数が増加しているとし、肝炎の公衆衛生的アプローチを推進し、その進展を加速させるための一連の行動を概説。

WHO：薬剤耐性結核とC型肝炎の薬剤併用療法

WHOは、HCVと多剤耐性結核またはリファンピシン耐性結核(MDR/RR-TB)の併用治療は可能との最新情報発表。

ポリオ：公衆衛生上の緊急事態をさらに3ヶ月延長

国際保健規則に基づく緊急委員会が開催され、ポリオが依然として「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」であると、暫定勧告を延長。

世界初の5種混合髄膜炎ワクチンを導入(ナイジェリア)

髄膜炎菌敗血症のから人々を守る新しいワクチン(Men5CV)を世界で初めて導入。髄膜炎菌の5つの主要株を1回の接種で強力に防御する。

「害を及ぼす男らしさ」への挑戦：男性と男児のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス参加

有害なジェンダー規範が様々な形で少年や男性に影響を与えている。この研究は、将来に向けてSRHにおけるジェンダー

平等を推進するための優先事項を示した。

HRP 年次報告書 2023

HRP：国連「人間の生殖に関する研究開発および研究訓練特別プログラム」年次報告書2023は、昨年度の同プログラムの主要な成果を掲載。

コレラの新経口ワクチンを事前認証：WHO

コレラの新しい不活化経口ワクチンEuvichol-Sが、世界保健機関(WHO)の事前認証を取得。既存ワクチンと同様の有効性があり、製剤が簡便で、投与も簡便。アフリカで供与開始。

「空気感染する病原体に関する用語」案

空気感染し呼吸器感染症を引き起こす病原体に関する用語に関するグローバル技術協議報告書で、『感染性呼吸器粒子』、『空気感染』、『直接沈着』の一般的記述(用語)案が示された。

WHO：史上初となる「患者安全権利憲章」を発表

WHOは、患者安全に関する世界閣僚サミットにおいて「患者安全権利憲章」を発表。患者中心の医療システムを構築し、患者の安全を向上させ、危害のリスクを

軽減するためのツールを提供する。

2024年世界予防接種週間

今年は拡大予防接種計画の50周年。WHOはLancet誌に、予防接種があらゆる健康介入の中で唯一最大の貢献をしていることを示し、過去50年間で推定1億5,400万人の命が救われたとした。「すべての国があらゆる面で人事を尽くし、予防接種で命を救う」ことへの理解と推進が必要。

「内臓リーシュマニア症」の経口薬、第II相臨床試験に移行

リーシュマニアはマラリアに次ぎ致死率の高い寄生虫症。経口錠剤の形で投与できるLXE408新モレキュールが、治験トライアルが第II相に突入。製薬会社は、試験が成功の後、安価に本薬を配布することを約束。

WHO 世界マラリア計画、新たな活動戦略

WHO 世界マラリア計画は、2030年までの優先事項と主要な活動をまとめた新たな活動戦略を発表し、今後重点的に取り組む4つの戦略目標や指針となる3原則を示した。

4月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。 <https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・リハビリテーション、・麻疹(はしか)、・脊髄損傷、・青少年期の妊娠、・B型肝炎、・C型肝炎、・ジフテリア、・シヤーガス病(アメリカ・トリパノソーマ症)、・意図的なイベント(行為)、・女性に対する暴力、・衛生設備